



加藤 清  
(爽志会)

## ●総合支所の効率的活用策は ●両JAとの合同事業の実態は ●市政運営におけるマニフェスト達成度は

**質問** 前沢、胆沢総合支所の空きスペースの効率的活用の具体策は。

**市長** 公有財産の効率的活用の観点から、両総合支所に於ける空きスペースは、他団体と協議を進め、行政サービスを低下することなく、どう活用できるか、早急に検討する。

**質問** 農業振興を図る観点から、岩手ふるさと農協、江刺農協との連携において、多岐に渡る合同事業を強力に実施すべきと考えるが市の考え方は。

**市長** 地域農業マスタープラン実践支援事業を中心に両JAとの合同事業を行っている。今後の取り組みは、6次産業化や、産地形成事業、米穀、野菜、畜産振興対策事業等を基本に両JAと連携、協議を重ね重点施策として進める。

**質問** 市政運営について、3年半の市政運営におけるマニフェストの達成度は。

**市長** 財政再建を第一の基本として市政運営を進めてきた、財政課題を明らかにすると共に、理解を求め、未来指向に向けた



前沢総合支所

まちづくりに政策転換を進めてきた。変革を求めている今日までの市政運営であったが、今後においても方針は変わることはない。評価については市民が判断されることと思う。

**質問** 市立病院・診療所改革プランの基本的考え方は。

**市長** 地域医療再構築のため、医療事業の統一、病院診療所の連携強化、前沢・衣川診療所の地域医療の果す役割の明確化、及び休床化の方向性について検討を進める。急性期医療体制強化の点から、水沢病院の改築を柱に、市民理解を求め、改革プラン策定を目指す。



菅原 明  
(日本共産党)

## ●市立病院・診療所改革プランは慎重に

**質問** 市長から示された改革プラン案を見ると、大いに疑問を持たざるを得ない。衣川・前沢診療所は合併前から、保健・医療・福祉が一体となった施設として、財政面で大変な中、予算を捻出してこれまで運営してきたと認識している。

特に両区には、いざという時、入院できる施設は、診療所しかないという状況である。奥州市地域医療懇話会と奥州市地域医療計画策定委員会では、両診療所の休床化と江刺区内の診療所の廃止について協議されているが、休床化、廃止後の具体的な対応策が示されていない。地域住民の中からは、不安と市政に対する不満の声が多く出ている。今必要なことは、全体的な奥州市の医療がどうあるべきか、地域で話を聞き、それらも組み入れたプランを作るのが、順序ではないか。

**市長** 前沢診療所および衣川診療所は、民間の医療施設が少ない地域及び、へき地での外来医療、入院医療など、地域に密着した医療施設としての役割を担っている。



衣川診療所の入院病床

しかし、医療の都市部への偏在化や、勤務医としての過酷な労働環境が敬遠される中で、入院施設を有する診療所への常勤医師の安定した確保は極めて厳しい状況にある。国の医療福祉の制度改革が入院から、在宅医療へと流れの中、将来的に医師が集まりやすい環境を整えるためにも、休床化を図りたいとするものである。

休床後の両診療所の入院患者については、公立病院はもとより、民間医療・福祉施設との連携により、入院加療を要する患者の紹介、搬送を強化することで、これまでと同様に地域に密着したサービス提供を図っていく。